

季節の変わり目、湿気も花粉も乗り越える 貴方の健康づくりを応援します

営業時間 毎週木、金、土の12~18時（日、月、火はご予約のみ）時間外も遠慮なくご相談ください
室内環境 空気清浄機使用、常時換気、HACCP衛生管理



完熟シークワサークリームタルト

手作りのお菓子（砂糖、人口甘味料は使用していません）

昨年は自家農園のシークワサーが鈴なりでした。今年に入って完熟シークワサーを収穫。完熟シークワサー果汁を使った酸っぱいクリームをタルトにしました。タルト台はプロテイン入り、トッピングは甘夏ピールとカカオパウダー。hascrossらしく仕上げました。

飲食（店内利用と一部お持ち帰りに対応、Uber Eats・出前館に出店）

薬膳パンとスープのセット、スープは自家農園産 葉玉ねぎのポタージュスープがはじまりました。また、玉ねぎ麴で作った手作りベーコンと卵のオープンサンドをご用意する予定です。

オンライン談話会: 地球温暖化・生物多様性分野第一人者の1人マイケル・ノートン教授を囲んでのオンライン談話会 文書記録を公開中

視聴者より頂戴したご質問に追加調査して回答を記載しています。ホームページからリンクして無料でダウンロードできます。カラー版文書記録のプリントをご希望の場合は有料で送付しています。ホームページをご覧いただき、「お問合せ」からお申し込みください。

ヒト組織に関する検討会の文書記録の公開を準備中です。

個別健康相談案内: ご希望の健康・栄養関連科学情報の提供にしております

初回のご相談は無料です。ご希望により調査報告書(有料)をご提供します。ご健康が改善されたという嬉しいお声をいただいています。

薬膳菓子・美健菓子

hascrossのスイーツはすべて砂糖、人口甘味料不使用

甘味は米ぬか由来のイノシトール、天然型甘味料(キシリトール、ラカンカ)、イヌリン、水飴、ハチミツの組み合わせ

春のお奨めをご紹介します

○完熟シークワサークリームタルト 380円/コ

完熟シークワサー果汁を加えた酸っぱいクリームをタルトにしました。季節限定

○よもぎプリンと発酵あんこ 360円/コ

春の畑によもぎがフサフサ芽吹きました。定番のよもぎプリンの香りがよい季節です。発酵あんこと一緒にどうぞ。

○薬膳ケーキ「よもぎ・ライチ・ブルー」

2,100円/½本

乾燥ライチをライチ酒に浸けて、ブルーとよもぎを合わせたケーキです。ライチ、ブルーともにオーガニック品を使用しています。

○柑橘ピールのチョコレートコート 700円/パック

甘夏ピールのオレンジをチョコレートにディップした甘夏ピールのチョコレートコート。4月後半からご用意できる予定です。

(ハッサクピールのチョコレートコートは終了しました)

ランチ・カフェ

薬膳パンと季節のスープセット 1,600円

季節の野菜、スープ、薬膳パン、ジンジャーハンバーグとデザートセット。季節のスープは自家農園産の葉玉ねぎのポタージュ、さつまいもときのこのポタージュなど

手作りベーコンと卵サンド 野菜とセット 1,000円

手作りのパンズに玉ねぎ麴のみで作った豚バラ肉の

ベーコンと卵のサンド。

マスタードソースがアクセント

季節の野菜とセットどうぞ。

その他、薬膳カレーなど



薬膳茶

季節の変わり目に多い体調不良には香りのあるミントやジャスミンなどのお茶がお奨めです。

農園便り いま春のさかりです

大根、キャベツ、ブロッコリーなどの冬野菜が去って、いまタマネギ、ニンニクなど越冬野菜が主役です。無農薬葉玉ねぎスープのおいしいこと。温暖化のなかで時たまやってくる低温の嵐がジャガイモやカボチャの新芽を容赦なく叩きます。週一農民の知恵のしぼりどころです。 畑の片隅の春↓



住所 〒232-0071 横浜市南区永田北 1-3-3-1

電話 070-4414-7834 <https://hascross.yokohama>

京急井土ヶ谷駅より 徒歩10分または

横浜市営バス79番199番、神奈中バス11番バス5分

北永田バス停下車至近

保土ヶ谷駅東口より(途中坂あり徒歩15分)

横浜市営バス212番 バス5分 北永田バス停下車

Ref to URL for English Information



エッセイコーナー

紅麴問題にどう対処する？

科学か制度か

市場にでた紅麴の一部の製造品の使用者のなかに腎障害、さらには死亡者がでた。製品に毒物が含まれているとの嫌疑がかけられ、ニュースは国内外を駆け回っている。

この間に製造販売業者が事態を公表するまでに2か月もかかったことが非難されている。業者は製造品の一部に予想外の物質が含まれていたことは突き止めていたが、これが原因であるとの科学的な根拠が見つからない段階での公表をためらっていた。調査に入った厚生省がはじめてその疑惑物質名を公表した。

疑わしい物質があるとすれば、それを特定し、作用機序を解明する科学的研究は必要だ。しかし解明できるかどうか、原因が他にあるかどうかは分からない。

こと健康に関するかぎり、科学は万能でない。短時間のうちに科学的結論までもっていけるとは限らないことに覚悟が必要なのだ。とすれば市民として、自分達はパニックなんかにならないから、少しでもエビデンスができれば、早く公表してくれ。みんなで解決していく道をとるんだ。と言えるかどうかだ。

みんなで解決していくということはどうゆうことなのか。今回の疑わしいという物質(プベルル酸)についても、公開されてみれば多くはないが詳しい研究グループがあることが分かった。しかも国内に。

食品による被害はいまに始まったことでない。過去の例でいえば、食用油製品が次世代におよぶ甚大な障害を生み出してきているカネミ油事件、サプリメントとして米国に輸出されたアミノ酸製品が38名の死者を含む多くの被害者をだしたトリプトファン事件などを記憶しておられる方もあるだろう。

この2つの事件は全く異なる経過をたどった。カネミ油事件では混入した原因物質(PCB)も障害の発症にいたる科学的な裏付けも明かとなった。しかし現在にいたるまで、障害者は引き続き苦しい立場におかれつづけている。一方でトリプトファン事件では疑わしい混入物質(エチレンビストリプトファンとフェニルアラミノアラニン)が明かにされたものの、これらが障害の原因であるとの科学的証拠固めは現在までできていない。むしろ原因は別にあるとの見方が有力である。にもかかわらず、被害者側と加害者側との間での和解が成立している。当時米国ではすでに製造物責任法(PL法)が公布されていた。カネミ油事件は我が国にPL法の必要性を痛感させることとなり、立法に結び付いた。

そこで我が国で現在、どのくらいの健康食品事業者がPL法にもとずく損害賠償責任保険(PL保険)に加入しているだろうか。探したら「食の安全・監視市民委員会」が見つかった。この委員会が業界上位55社にアンケートしたところ、29社から加入しているとの回答があったという。いま問題となっている紅麴製造販売元は幸い加入している会社のひとつだった。

サプリを購入するならば、製造元がPL保険に加入しているのかも判断のひとつだろう。

20240404 [松村記]